

2025/10/27（月）

朝の礼拝

聖書 ヨハネによる福音書 11 章 25, 26 節（新約聖書 185 頁）

イエスは言われた。「私は復活であり、命である。私を信じる者は、死んでも生きる。生きていて私を信じる者は誰も、決して死ぬことはない。このことを信じるか。」

永遠の交わり

昔、ある高齢者の方が「死ぬのは恐くない、家族や友だちと別れるのが悲しい」と、別の高齢者の方は「もうすぐ先に天国に行った友だちと会えるのが楽しみ」と言われました。人はこの世を去ることを恐れながらも、生きながらにして死を超えた人との交わりに思いをはせます。

冒頭の聖書は、イエスが親しくしていたラザロの死を知って、彼の姉マルタに語った言葉です（再読）。復活とは永遠に共にいること、命は死んで終わりではない、わたしをキリスト、救い主と信じる者は死んでも、生きていても永遠の交わりにある。生死を超えた交わりを信じるかと問います。

教会では聖餐式をします。パンはキリストの体、ぶどう酒はキリストの血として分かち合い、主の十字架と甦りを信じる交わりにあることを思い起こします。また学校の礼拝、家でも、主の名による祈りは離れた家族や友だちだけでなく、この世を去った方々との交わりでもあります。

昔、ケルト人は 11 月 1 日から冬、死の世界、その前日 10 月 31 日に死者が戻り、悪霊も来るので火を灯し、お化けに仮装して悪霊払いをしました。これがハロウィーンの始まりです。そして 8 世紀、当時の教会は 11 月 1 日の All Saints' Day を、世を去った人々との永遠の交わりの日として伝えました。

(しばらく黙祷しましょう)

慈しみ深い主よ、季節が急ぐように朝夕は冬のような冷え込みを感じるようになりました。一年の学びの収穫を感じつつ、入学試験など厳しい季節も迎えています。日々の歩みにあなたのみ守りと導きに改めて感謝を覚えます。どうか互いに慰め、励まし、祈り合い、すべてを献げ、互いに必要なものが、大切なものが、必要な方々と分かち合うように導いてください。また心身に苦しみを覚える家族、友人を覚えて祈ります。どうかその艱難を耐え、御心ならばひと時でも早く回復の時を与え、共に喜びと感謝を献げることができますように導いてください。どうか今日一日も、すべてをあなたに委ね、よき学びのうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン